

けしの仲間（ケシ属植物）は、春から夏にかけて色あざやかで美しい大きな花を咲かせるものが多く、ガーデニングや切り花用の植物として人気があります。しかし、けしの仲間には、法律で栽培が禁止されているものがあります。これらは、外観の特徴から、園芸用のけしと区別できます。けしの仲間を正しく見分けましょう。

けしの見分け方

—— 植えてはいけないけし ——

① ケシ（ソムニフェルム種）

（学名：パパヴェル・ソムニフェルム・エル）



【全体的特徴】

一重咲きの花は、花びら4枚で、色は赤、桃、紫、白などがあります。また、多数の花びらがついた八重咲きの花もあります。

開花期の草丈は、100～160cmです。

花が終わると雌しべが発達してふくらみ、だ円または球形で、上部が平たい皿のような形をした大きな果実（長さ3～7cm、径3～6cm）になります。

..... 色々なソムニフェルム種の花



八重咲

一重咲

一重咲 (一貫種)

八重咲きの花は、「ぼたんげし」、または「ペオニ（フラワード）ポピー」の名で園芸用に出回ることがありますので、注意が必要です。

【葉、茎の特徴】



葉、茎、つぼみなどの外観は、キャベツの葉のような白味を帯びた緑色をしています。

葉、茎、つぼみの表面には、ほとんど毛がありませんが、つぼみの下の茎（花梗）や葉の裏の主脈（葉の中心にある一番太い葉脈）には、まばらに毛がつくことがあります。

葉は互い違いに茎につき、上部の葉は柄がなく、**その基部は茎を抱き込むような形をしています**。葉の長さは10～50cm、幅は5～20cmです。

※この葉と茎の形がソムニフェルム種の特徴です。